※令和４年度以降入学生用

学校番号	1014

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「家庭総合　自立・共生・創造」（東京書籍）						
副教材等	新課程　家庭総合　学習ノート　自立・共生・創造　（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭生活に関心をもち、積極的に取り組みましょう。

・生活の様々な現象や課題について学び考え、理解を深め知識を身に付けます。
　友だちの考えを知り、多様な考え方を学び、自分の考えをもちましょう。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身に付けます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざします。

２　学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を通して，様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。
(3)様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	食生活・住生活，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と，それらに係る技能を身に付けている	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	経済生活	**第 9 章　経済生活を営む** 1. 情報の収集･比較と意思決定 2. 購入･支払いのルールと方法 3. 消費者の権利と責任 4. 生涯の経済生活を見通す 5. 家計をマネジメントする 6. これからの経済生活	a：・経済の基本的なしくみについて理解し、家計の収支を管理と生活設計が必要であることを理解している。 ・契約の重要性を理解する。消費者被害や消費者信用について理解し，利用に際しては，慎重に行う意識と対応策を身につける。消費者の権利を知り、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。 b：・自分のプランニングした人生を送った場合，いつどのくらいの費用が発生するか，考えることができる。 ・消費者として必要な知識と価値観を身につけ，日常生活の中で消費生活の向上をめざして工夫することができる。消費者に関する法令や救済機関について理解し，問題解決のための問い合わせ先や手順について把握している。 c：・人の一生にかかる費用や自分の将来について関心を持ち，その充実･向上をめざして生活設計・経済設計を実践する態度を身につけている。 ・問題商法や多重債務におちいらないために意識を高めている。	定期考査	定期考査 プリント 学習ノート	プリント 学習ノート
	環境	**第 10 章　持続可能な生活を営む** **１. 持続可能な社会を目指して** **２. 一人一人の力で社会を動かす**	a：持続可能な社会の実現のためには，私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 b：消費者の立場として，日常生活の中で「環境にやさしい消費行動」をとるためにどうすればよいか，理解している。 c：消費者が主役となって，環境問題を含む社会的課題の解決に向けた思考・判断ができる。	定期考査	定期考査 プリント 学習ノート	プリント 学習ノート
	住生活	**第 8 章　住生活をつくる** 1. 住生活の変遷と住居の機能 2. 安全で快適な住生活の計画 3. 住生活の文化と知恵 4. これからの住生活	a：・住まいに必要とされる居住条件と住まい方について考える ・健康に配慮した室内環境づくりに関する基礎的・基本的な知識を身につけており，充実･向上をめざして工夫ができる。 b：・住まいの機能を理解している。住まいを維持･管理するうえで，必要なことを身につけている ・家庭内事故と安全管理のために必要な住まいの条件を自分の価値観や生き方にあわせて思考・判断することができる。 c：・快適な住空間づくりについて，自分なりの課題を見つけ，その解決のために取り組んでいる。 ・住居内での災害防止･安全管理に関	定期考査	定期考査 プリント 学習ノート	プリント 学習ノート

※令和４年度以降入学生用

			心を持ち，住まいの工夫，充実・向上に意欲的に取り組むことができる。			
後期	食生活	第６章　食生活をつくる 1. 食生活の課題について考える 2. 食事と栄養・食品 3. 食品の選択と安全 4. 生涯の健康を見通した食事計画 5. 調理の基礎 6. 食生活の文化と知恵 7. これからの食生活	a:・食事の役割を理解し，日常の食生活で心がけるべきポイントを把握している。これからの食生活の向上を考えるうえでの必要な情報や知識が身についている。持続可能な食生活を実践することができる。 ・:消化・吸収の過程を理解し、各栄養素を多く含む食品について理解し，適切に組み合わせて摂取する方法を身につけている。 ・食品の安全・衛生にかかわる基本的な知識が身についている。家庭生活での食事の意義や役割を理解し，その充実・向上のために必要な基礎的・基本的知識を身につけている。 b:・自分の食生活を振り返り，課題を見出し，見直しをはかることができる。適切な食料消費のあり方を思考・判断することができる。 ・国や地域によって食文化に違いがみられることを認識し，伝統の継承・創造について考えることができる。 ・各栄養素の働きに関する基本を身につけており，実生活の場面で個々の食品にあてはめて考えることができる。 ・食品の安全・衛生の観点から，食品の管理について主体的に判断し，食品を適切に扱うことができる。家族の性，年齢，身体活動レベルに応じた摂取量のめやすから，家族の食生活の課題に気づき，改善策を検討できる。 c:・食生活の現状について関心を持ち，問題点を解決しようとする姿勢が身についている。食文化を維持・伝承していくことの大切さを認識し，食生活の充実・向上につなげようとする意欲が見られる。 ・私たちの生命と健康を維持するうえで必要な栄養素について理解しようとする意欲が見られる。 ・食品の取り扱いについて，食生活を守る立場から強い関心を持ち，実践的に取り組んでいる。いろいろな年齢に配慮した食事づくりの工夫について，積極的に提案できる。	定期考査	定期考査 プリント 学習ノート	プリント 学習ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度